

User Oriented な道路 の実現のために

新潟大学経済学部

大串葉子

User Oriented な道路をどう実現する？

- ▶ 今後の社会・経済情勢を考えると、今までのようなマンパワーや資金はもう利用できない



人口減、予算減、地方分権の時代、道路のQDC (Quality, Delivery, Cost)を確実に履行しつつ「User Oriented」を実現するためには、**自らが縮んでもビジョンが実現できる政策**が必要になる

あるべき姿を他力でも実現する

▶ 「あるべき姿」 = ビジョン

→ 「国として実行すること・しないこと」の明確化

→ 「国は実行しないけどやる必要があることを、
誰にどうやってもらうか」

→ ビジョン実現のために、国や執行機関の実行を
妨げる「制約」を取っ払う方法を確立する

☆ **しないこと・する(短・中・長期)ことを明確化する**

・政策の方向性：国がしないことを、やりたい組織に
(国が望むように) やってもらえるように誘導する

①快適な道路利用を阻害しているものは何？

- ▶ 過剰な制限と緩い制限
- ▶ 守られない規則
- ▶ 「既得権益」の強い抵抗
- ▶ 他所轄との連携不足

◎現場の意見

但し

×御用聞き

- 規制緩和
- 規制強化
- 運営体制の見直し

②利用者志向のマネジメントの徹底

▶ 予算は限られている

→道路をどう守るか？

→道路をどう使うか？

→道路をどう作るか？

何にどれだけ資金を投じるか…

・資産の棚卸しをやる

・優先順位

【予算のメリハリ】をつける

・PFIなどの活用

▶ 国と地方の役割分担の明確化

→ 平常時、そして災害時で異なるのは当然！

③道路評価の測定は納得！を重視

- ▶ 現在の経済性指標は納税者の納得を高めるものか？
- ▶ 道路の「利害関係者」は幅広い
＝ユーザとは、その道路を利用するすべての人
 - 1: 安全を考慮すると規制強化が必要な道路も多い
 - 2: 道路は、移動のための手段のみならず
(スポーツとしての自転車やランニング
＝健康増進のためのインフラになりつつある)
 - 3: 公共交通のユーザが使いやすい道路という視点

結論

- ▶ 縮んでもビジョンを実現する仕組みを作る
- ▶ 今ある道路を徹底的に使い倒す！
 - 規制の見直し、現場の知恵を活かして、
より安全で使いやすい道路へ
- ▶ スtockマネジメントの強化
 - 長持ちさせるための技術・知識の資産化
- ▶ 新しい道路は、リーズナブルかつ迅速に実現する
(完璧よりスピード重視)
- ▶ ユーザを捉え直して、より納得のいく道路利用へ